

「令和5年度伊達市ふれあい懇談会（伊達地域）」発言録

日 時：令和5年11月13日（月）

18時30分～20時10分

場 所：伊達福祉センター

○市長：説明「市長あいさつ、伊達市の6つのまちづくりについて」（要旨別紙参照）

【質疑応答】

建設・土木関連

■下水路の整備について

市 民：下水路が未整備で、悪臭がひどい。梁川の分庁舎に下水道課があった時に40～50回通った。行政相談員、弁護士にも相談した。担当者が2年で変わってしまう。弁護士に相談したら、伊達市の条例でできる、下水道課に相談し、来年には予算化できるかもしれないと言われた。対応してもらいたい。

建設部長：市に相談いただいていると伺っていた。今後実情を相談いただきながら進めていきたい。

■公園管理について

市 民：伊達駅南側にある公園のステージの下屋が老朽化し、いつ壊れるか心配している。確認・点検をしてほしい。また、生垣の剪定を支所と相談して管理しているが、市でも剪定を年1回くらいお願いできないか。地元では春と秋の道路愛護デーで年2回剪定しているが、それだけでは足りない状況である。

都市整備対策政策官：下屋などの公園内の施設は市職員が定期的に点検している。必要に応じて専門業者での対応を行っていく。危険にならないように進めていく。

また、生垣は、脚立を使った作業が伴う場合危険が伴うため、専門業者へ依頼して対応するので相談願いたい。

まちづくり・地域振興関連

■伊達総合支所建設について

市 民：新しくできるイオンに伊達総合支所を入れてはどうか？

未来政策部長：現状では、今ある場所に建て替える予定である。イオン内での様々な行政サービスは検討中である。

■空き家対策について

市 民：空き家対策について教えていただきたい。亡くなったり、施設に入ったり、

転居したりで空き家が多い。私の町内会では130世帯あるが、空き家が増えている。この前、火事もあった。空き家が市ではどういった現状なのか、空き家バンクもあるが、空き家に対してどのようなことをしているのかなどを知りたい。火事が怖い。

未来政策部長：空き家は市内全体的に増加傾向にある。市ができることは、持ち主を調べて管理をお願いする。空き家バンク制度のマッチングで空き家が転売された例もある。持ち主に空き家バンク制度をお知らせするなど対応していく。

■図書館の活用について

市民：さきほど市長が説明した第3次総合計画の6つの柱の内の3番目（未来を切り開く人をはぐくむ教育・文化のまち）、4番目（活力とにぎわいあふれる産業のまち）についての質問。図書館の視察で岩手の紫波町に行った。人口3万3千人の田園地帯でとても賑やかだった。図書館が人づくりの拠点となっていた。地域地場産業である酒造り、野菜作りのコーナを設けるのみでなく、市で図書館に人を呼んで学びの場となっている。本の貸し借りのみでなくまちづくりの発信基地となっていた。子どもも大人も育てていた。

人材育成、地場産業の振興など、それぞれの部署で追求するのではなく点から線、面にしていくと良いのでは？イオンをチャンスと捉えて発想を変えてにぎわいや活力ある運営をしていただきたい。

教育部長：市では現状として図書の貸し出し、冊数増加により読書に親しむことに力を注いでいる。各地区交流館にも図書を配置し、多くの方に新書に触れてもらうことを重点的に行ってきた。電子図書にも取り組んできた。人づくりまちづくりに図書館を活用した上で情報収集しながら、各部署と連携し今ある施設を活用しながら検討していく。

市長：図書館は図書に親しむだけではなく、図書を借りに行く際にその場所に何か別の楽しみがあって、そこをみると面白そうな本を見つけることがある。図書館がまちづくりの拠点となっている。そのためには市立図書館の在り方を見直す必要がある。人が集まる機会を作っていく。

■自治組織の交付金について

市民：旧伊達町は福島県内で最小の面積で、人口密度が高い。人口数が増えている。自治協議会は川西と川東に分かれている。川西は予算が多いが、川東は少ない。川西は予算が多いため講座や教養を色々開催できるが、川東は事務員2人分の賃金払ってなくなってしまうため、講座や教養を開催できない。文化団体は川西、川東一緒にやっている。伊達地区は川西、川東で共同の自治協議会で運営できないか。

未来政策部長：自治組織は旧小学校単位で最寄りの交流館を拠点として地域づくりの活動をするため設立した。交付金の根拠は人口割となっている。そのため、川西は川東の予算の３倍強の差が出てしまうのが現状である。ご理解いただきたい。

子育て・教育関連

■特別支援にかかる補助金について

市 民：子育て支援について質問。伊達こども園の会議に出席した際に特別支援にかかる補助金を市からいただいていることに感謝。しかし、園が補助金を見込んでいた園児数と実際に認定された園児数が、見込んでいた園児数の半分だったとの話があった。理由としては、医療的に認定された人（医師の診断を受けた人）でなければ補助金の対象にならないとのことだった。このまま就学しても困るのではないか？

小学校に進学するまでに個別の指導を確立して、どのような支援が必要かの計画作成が必要でないか？クラス担任が日頃の勤務ではできない。補助金が必要である。「伊達市に住んでよかったよね」、「その子が伊達市で育ってくれてありがとう」と思えるような施策をお願いしたい。

私は、10年前に札幌市から移住した。札幌市では、教育の側から話があると行政側が積極的に見に来てくれ、診断が付かなくても補助金の対象にしてくれた。

子育てで魅力を高め、伊達市の移住者を増やせないか。

こども部長：かつては補助金の対象に対し、医師の診断が必要だったが、今は診断がつかなくても医師の意見書があれば補助金の対象となる。医療機関の受診自体に抵抗がある方に対する対応は難しいが、医師の意見書がなくても、健診後の相談会などで療育が必要と判断されれば、保健師の意見書で療育機関に通うことも可能。

その子が伊達市で育ってよかったと思えるように肝に銘じて施策を進めていく。

教育部長：今年度から就学前の児童相談ができるよう専門員を配置した。専門員が県と連携しながら保護者と面談し、就学に対応していく。

生活環境関連

■停止線、カーブミラーについて

市 民：11月9日の民報新聞の記事で、交通安全市民大会の全面広告の市長挨拶を読んで、改めて安全運転に努めようと思った。併せて道路標識、安全設備の充実で事故ゼロになるのではないかな。

4月24日の伊達市経営に関する説明会でも話したが、停止線が消えかかって

いた。徐行の標識、カーブミラー、停止線について危険な場所の要望書を提出した。カーブミラーは時間がかかると思ったが、停止線でさえ未だに引かれる様子はない。そこは、車の通りは少ないが、通学路で8名の児童が通っている。再度確認していただいて、対応をお願いしたい。

危険度の高い順から設置と言われるが、交通安全のハード面への予算増額が必要ではないか。

市民生活部長：停止線の相談を受け、警察署へ要望をあげているが、警察署からの回答はまだないので確認する。注意喚起の看板は地域の要望を踏まえ交通安全協会と協議していきたい。

建設部長：道路管理として学校周辺通学路対策事業を今年度実施している。意見のあった伏黒中央線は実施の予定がある。伊達に11カ所あるため、順次進めている。担当者に状況を確認していきたい。

■ゴミ袋について

市民：ゴミ袋が新しくなり、新しい袋を取り出す際に強く引っ張ると切れてしまう。価格が高くなったのにおかしいのではないか。

市民生活部長：切りづらいとの意見を頂戴していた。ただ、以前の材質はほぼ変わっていない。焼却しやすいように破けやすい構造にして作っている。伊達地方衛生処理組合に要望があったことを伝える。

■せせらぎ広場の修繕について

市民：伊達駅前のせせらぎ広場は、人工の川でポンプアップして水を流している。昨年の秋に砂が詰まって水が流れなくなった。修繕してもらい流れるようになったが、最近またポンプに砂が詰まって流れなくなり、また壊れてしまった。ポンプアップの機械は20年経っている。応急措置しかできないとのことだった。せせらぎ広場は伊達駅を降りた伊達の玄関口である。対応願いたい。

建設部長：市職員が現地でポンプを上げて砂を取って直営で修繕したと聞いていた。改めて現地確認をして対応していく。

農林業・商工業・観光関連

■観光について

市民：霊山、月舘の山間部で過疎化が進んでいるのを心配している。私はシルバー人材センターの理事をやっていて、全国の施設などを研修で見学してきている。鶴岡市の映画村に視察に行った。視察に行った人をエキストラとして出演させていた。霊山は自然豊かで撮影に向いているのではないかな？

未来政策部長：斬新な発想に感謝。山間部への新たな発想や提案について、映画村を作るかは別問題として、施策の中で知恵を絞りながら検討していきたい。

その他

■ふれあい懇談会の案内について

市 民：懇談会のあり方についての意見。お知らせをみると行政推進員、自治組織の代表宛てになっている。参加者をみると、男性、高齢者が多く偏りがある。

市長や幹部職員が来るのにもったいない。女性団体、PTAなどにも案内を
すると若い世代も参加するのではないかな？来年度に向けて検討いただきたい。

総務部長：ふれあい懇談会は昨年度から始まり、今回が2回目。そもそもこの懇談会は参加対象を絞っていないが、周知不足があったかもしれない。自治会町内会長に通知したのは、地域内に周知してほしい、声掛けしてほしい意味もあった。来年度以降、各種団体への通知や周知も検討していきたい。今回は広報紙で周知し、不特定多数の方に参加してほしいという趣旨についてはご理解いただきたい。